



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月31日

上場取引所 東 名

上場会社名 中部飼料株式会社

コード番号 2053 URL <https://www.chubushiryō.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平野 晴信

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 井藤 直樹 TEL 052-204-3050

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|---------------|---------|------|-------|------|-------|------|----------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年3月期第3四半期 | 144,890 | 7.7 | 3,766 | △9.4 | 4,107 | △7.7 | 2,975 | 3.8 |
| 2021年3月期第3四半期 | 134,549 | △2.8 | 4,156 | △3.4 | 4,449 | △4.2 | 2,866 | △19.5 |

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 2,772百万円 (△18.7%) 2021年3月期第3四半期 3,411百万円 (△7.8%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年3月期第3四半期 | 99.10 | - |
| 2021年3月期第3四半期 | 95.49 | - |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|--------|--------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2022年3月期第3四半期 | 90,794 | 61,695 | 67.7 |
| 2021年3月期 | 87,932 | 60,272 | 67.8 |

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 61,477百万円 2021年3月期 59,611百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年3月期 | - | 13.00 | - | 15.00 | 28.00 |
| 2022年3月期 | - | 15.00 | - | - | - |
| 2022年3月期(予想) | - | - | - | 15.00 | 30.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|---------|-----|-------|-------|-------|-------|---------------------|-------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 192,000 | 5.9 | 4,000 | △25.7 | 4,350 | △24.3 | 3,100 | △18.0 | 103.22 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日（2022年1月31日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|------------|-------------|------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2022年3月期3Q | 30,371,908株 | 2021年3月期 | 30,371,908株 |
| ② 期末自己株式数 | 2022年3月期3Q | 338,036株 | 2021年3月期 | 355,544株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 2022年3月期3Q | 30,026,935株 | 2021年3月期3Q | 30,016,512株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (会計方針の変更) | 8 |
| (セグメント情報) | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスのワクチン接種が進んだことなどから新規感染者数が大幅に減少し、景気に持ち直しの動きがみられましたが、感染力の強い新たな変異ウイルスの発生など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

飼料業界におきましては、主原料のとうもろこし価格が、中国の旺盛な需要やエタノール需要の回復などから期初に急上昇しました。米国産とうもろこしの生産量上方修正や良好な天気予測等で夏場にいったん値を下げたものの、エタノール生産量の増加や小麦・大豆価格の上昇などにより、秋口から上昇に転じております。このような状況を反映して、飼料メーカー各社は、上期に2度値上げした配合飼料価格を10月に値下げしましたが、値下げ後の穀物価格の上昇や円安基調で推移した為替相場により、上期と比較して第3四半期の原料ポジションは悪化しました。また、前期11月に発生して急速に拡大した鳥インフルエンザは収束したものの、飼料需要はすぐには戻らず、採卵鶏用飼料の流通量が減少するなど厳しい事業環境は続いております。

このような状況のなか、当社は成長市場でのシェア拡大や高度な提案を実施する畜種別販売戦略、お客様の利益に貢献する差別化飼料の販売を行い、業績の向上に努めてまいりました。また、伊藤忠商事株式会社及び伊藤忠飼料株式会社との間の資本提携解消及び業務提携変更を行い、8月に当社と伊藤忠飼料株式会社の共同出資によるみらい飼料株式会社が保有する4工場のうち、3工場を会社分割により分離しました。提携変更の理由は、スピード感に優れた自社一貫生産体制のメリットを最大限に活かしてお客様に貢献し、さらなる成長を目指すためであります。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,448億90百万円（前年同四半期比7.7%増）、営業利益37億66百万円（前年同四半期比9.4%減）、経常利益41億7百万円（前年同四半期比7.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益29億75百万円（前年同四半期比3.8%増）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第3四半期連結累計期間の売上高は143億31百万円、売上原価は143億29百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1百万円減少しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。

売上高は、連結子会社を前期9月に事業譲渡、当期8月に一部の事業を会社分割により分離したことや収益認識会計基準適用による減少要因があったものの、主力の飼料事業が前年同四半期を上回ったことなどにより、7.7%の増収となりました。営業利益は、売上総利益率の低下や販売費及び一般管理費の増加などにより9.4%の減益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期に特別損失に計上した事業譲渡損がなくなったことなどにより、3.8%の増益となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報）」に記載のとおりであります。

(飼料)

売上高は、8月に連結子会社のみらい飼料株式会社の3工場を分離したものの、平均販売価格が前年同四半期を大幅に上回ったため、前年同四半期比20.5%増の1,363億63百万円となりました。セグメント利益は、前年同四半期比10.8%減の38億75百万円となりましたが、減益の主な要因は以下の通りであります。

畜産飼料の販売量は、鳥インフルエンザの影響が残り採卵鶏用飼料が減少したものの、成長市場である北海道やブローラー用飼料、養牛用飼料の拡販で吸収し、若干増加しました。販売量増加に加え、前年同期と比較して原料ポジションが改善したものの、販売費及び一般管理費の大幅な増加や前期に計上した補助金収入がなくなったことなどにより、畜産飼料は減益となりました。また、水産飼料は販売量減少に加え、原料高騰による利益率低下などにより減益となりました。

(その他)

売上高は、前年同四半期比60.2%減の85億27百万円となりました。減収の主な要因は、収益認識会計基準適用による減少、前期9月に連結子会社の株式会社スマックを事業譲渡したことです。セグメント利益は前年同四半期比8.1%減の5億94百万円となりました。減益の主な要因は、特殊卵、畜産物、有機入り配合肥料の各事業は、販売量を伸ばし増益となった一方で、畜産用機器事業は前期に販売した大型案件の反動により販売台数が減少し、減益となったためであります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ28億62百万円増加の907億94百万円となりました。主な増減は、受取手形及び売掛金の増加118億55百万円、原材料及び貯蔵品の増加16億76百万円、現金及び預金の減少91億31百万円、有形固定資産の減少19億77百万円であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ14億38百万円増加の290億99百万円となりました。主な増減は、買掛金の増加50億51百万円、短期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）の減少10億70百万円、長期借入金の減少21億円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ14億23百万円増加の616億95百万円となりました。主な増減は、利益剰余金の増加20億74百万円、非支配株主持分の減少4億42百万円であります。総資産の増加率が純資産の増加率を上回った結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.1ポイント低下の67.7%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、最近の業績の動向等を踏まえ、2021年5月20日に公表いたしました2022年3月期（通期）の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（2022年1月31日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 11,747 | 2,616 |
| 受取手形及び売掛金 | 30,416 | 42,272 |
| 商品及び製品 | 2,284 | 2,841 |
| 仕掛品 | 764 | 626 |
| 原材料及び貯蔵品 | 7,632 | 9,309 |
| その他 | 3,244 | 3,294 |
| 貸倒引当金 | △169 | △201 |
| 流動資産合計 | 55,920 | 60,759 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 9,125 | 8,793 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 7,527 | 6,765 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 1,103 | 1,077 |
| 土地 | 8,030 | 7,125 |
| 建設仮勘定 | 249 | 297 |
| 有形固定資産合計 | 26,036 | 24,059 |
| 無形固定資産 | 459 | 500 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 4,836 | 4,674 |
| その他 | 763 | 883 |
| 貸倒引当金 | △83 | △83 |
| 投資その他の資産合計 | 5,516 | 5,475 |
| 固定資産合計 | 32,012 | 30,035 |
| 資産合計 | 87,932 | 90,794 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 13,258 | 18,309 |
| 短期借入金 | 1,629 | 631 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 2,120 | 2,047 |
| 未払法人税等 | 519 | 515 |
| 賞与引当金 | 425 | 248 |
| 役員賞与引当金 | 87 | 16 |
| その他 | 3,349 | 2,886 |
| 流動負債合計 | 21,389 | 24,654 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 3,347 | 1,246 |
| 債務保証損失引当金 | 12 | 14 |
| 退職給付に係る負債 | 477 | 541 |
| 資産除去債務 | 70 | 70 |
| その他 | 2,364 | 2,571 |
| 固定負債合計 | 6,271 | 4,444 |
| 負債合計 | 27,660 | 29,099 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 4,736 | 4,736 |
| 資本剰余金 | 4,356 | 4,334 |
| 利益剰余金 | 49,660 | 51,735 |
| 自己株式 | △497 | △472 |
| 株主資本合計 | 58,255 | 60,333 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,214 | 1,039 |
| 繰延ヘッジ損益 | 124 | 63 |
| 為替換算調整勘定 | △38 | 1 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 55 | 39 |
| その他の包括利益累計額合計 | 1,355 | 1,144 |
| 非支配株主持分 | 660 | 217 |
| 純資産合計 | 60,272 | 61,695 |
| 負債純資産合計 | 87,932 | 90,794 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 134,549 | 144,890 |
| 売上原価 | 124,266 | 134,168 |
| 売上総利益 | 10,282 | 10,722 |
| 販売費及び一般管理費 | 6,126 | 6,955 |
| 営業利益 | 4,156 | 3,766 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1 | 4 |
| 受取配当金 | 151 | 156 |
| 持分法による投資利益 | 65 | 70 |
| 貸倒引当金戻入額 | 0 | 0 |
| 債務保証損失引当金戻入額 | 15 | — |
| その他 | 109 | 131 |
| 営業外収益合計 | 344 | 362 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 23 | 17 |
| 債務保証損失引当金繰入額 | — | 1 |
| 支払補償費 | 17 | — |
| その他 | 10 | 2 |
| 営業外費用合計 | 50 | 21 |
| 経常利益 | 4,449 | 4,107 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 7 | 5 |
| 投資有価証券売却益 | 1 | 115 |
| 補助金収入 | 102 | — |
| 特別利益合計 | 110 | 120 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 8 | 11 |
| 事業譲渡損 | 380 | — |
| ゴルフ会員権評価損 | 0 | — |
| 特別損失合計 | 389 | 11 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 4,170 | 4,216 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,117 | 1,132 |
| 法人税等調整額 | 178 | 104 |
| 法人税等合計 | 1,295 | 1,236 |
| 四半期純利益 | 2,875 | 2,980 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 8 | 4 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 2,866 | 2,975 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 四半期純利益 | 2,875 | 2,980 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 594 | △175 |
| 繰延ヘッジ損益 | △56 | △60 |
| 為替換算調整勘定 | △0 | 24 |
| 退職給付に係る調整額 | 2 | △15 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | △4 | 18 |
| その他の包括利益合計 | 535 | △207 |
| 四半期包括利益 | 3,411 | 2,772 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 3,402 | 2,764 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 8 | 8 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、顧客への商品の販売における当社グループの役割が代理人に該当する取引について、代理人として純額で収益を認識しております。また、買戻し義務に該当する有償支給取引については、従来は有償支給した原材料について消滅を認識しておりましたが、有償支給した原材料について消滅を認識しないことといたしました。

なお、収益認識会計基準の適用指針第98項に定める代替的な取扱いを適用し、一部の商品又は製品の販売において、出荷時から当該商品又は商品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は14,331百万円、売上原価は14,329百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。この変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------------------|---------|---------|--------------|---------|--------------|--------------------------------|
| | 飼料 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 113,131 | 113,131 | 21,417 | 134,549 | — | 134,549 |
| セグメント間の 内部売上高又は振替高 | 242 | 242 | 30 | 273 | △273 | — |
| 計 | 113,374 | 113,374 | 21,448 | 134,822 | △273 | 134,549 |
| セグメント利益 | 4,342 | 4,342 | 646 | 4,988 | △818 | 4,170 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、畜産用機器、鶏卵事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△867百万円、金融収支542百万円、事業譲渡損△380百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の税金等調整前四半期純利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------------------|---------|---------|--------------|---------|--------------|--------------------------------|
| | 飼料 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 136,363 | 136,363 | 8,527 | 144,890 | — | 144,890 |
| セグメント間の 内部売上高又は振替高 | — | — | 9 | 9 | △9 | — |
| 計 | 136,363 | 136,363 | 8,537 | 144,900 | △9 | 144,890 |
| セグメント利益 | 3,875 | 3,875 | 594 | 4,469 | △252 | 4,216 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、畜産用機器、鶏卵事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△863百万円、金融収支595百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の税金等調整前四半期純利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分変更)

当社グループの報告セグメントは、従来「飼料」と「コンシューマー・プロダクツ」に区分しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、「コンシューマー・プロダクツ」の量的な重要性が乏しくなったため「その他」に含め、報告セグメントは、「飼料」のみに変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「飼料」の売上高が3,086百万円、セグメント利益が1百万円それぞれ減少し、「その他」の売上高は11,244百万円減少しておりますが、セグメント利益に与える影響はありません。